

グローバルコミュニケーション計画の推進 -多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証-

「言葉の壁」を取り除き、自由でグローバルなコミュニケーションを実現するため、多言語音声翻訳技術で翻訳可能な言語を拡大するとともに、翻訳精度を実用レベルまで向上させる。また、病院など将来の事業化を前提とした実フィールドでの社会実証に取り組み、クラウド型翻訳サービスプラットフォームを確立する。

1 施策の概要

国立研究開発法人情報通信研究機構が開発した多言語音声翻訳技術は、人間の声を認識し文字に変換する音声認識技術、認識された文字を相手の言語の文に翻訳する機械翻訳技術、翻訳された文を相手の国の言語の音声で出力する音声合成技術から成り、現在は日本語、英語、中国語、韓国語の4言語間の旅行会話の翻訳を比較的精度よく実現している。

多言語音声翻訳技術をもとに日英中韓を含む10言語間の旅行会話、医療分野の会話、買い物時などの日常会話や災害情報等の翻訳を実用レベルまで向上させ、2020年までに着実な社会実装を目指すため、本事業では、車内など雑音が多い状況下での音声認識を向上させる雑音抑圧技術、正しく翻訳できなかった文を自動的に判別、抽出し、自動学習させることにより効率的に翻訳精度を向上する翻訳自動学習技術等を開発する。

また、病院、公共交通機関等への多言語音声翻訳システムを活用したアプリケーション導入に向けて、これら機関の協力の下、実フィールドにおいて技術検証を実施し、実用化に必要な体制構築と技術開発を行うとともに、クラウド型翻訳サービスプラットフォームを確立する。

2 イメージ図

